

幼稚園より

アドヴェント礼拝

11/22金
11/29金

保護者会クリスマス礼拝

12/6金
12/5木

クリスマス礼拝

12/13金

3学期始業礼拝

2020年1/8水

聖書を学ぶ会

2/3月

卒園礼拝（年長児）

3/5木

終業礼拝

3/12木

卒園式

3/13金

初等部より

アドヴェント・コンサート

11/29金 19:00～20:00
米山記念礼拝堂

保護者のためのクリスマス礼拝

12/6金 11:30～12:30
米山記念礼拝堂

クリスマス讃美礼拝

12/20金 15:30～17:00
青山学院講堂

初等部チャペルコンサート

2020年2/21金 15:30～16:30
米山記念礼拝堂

ハンドベルクワイア、聖歌隊、トランペット鼓隊

卒業礼拝

3/4水 9:10～9:50
米山記念礼拝堂

6年生を送る礼拝

3/9月 8:25～8:50
米山記念礼拝堂

中等部より

クリスマス礼拝

12/18水 14:00～16:00
青山学院講堂

特別賛美老人ホーム

救世軍恵泉ホーム訪問

2020年1/11土 13:30～16:30

保護者聖書の会

（礼拝と聖書の学びと分かち合いの会）
1/22水 2/26水 10:50～12:00
小礼拝堂

宗教講演会

2/13木 14:55～15:45
講演
チャイルド・フアンド・ジャパン

卒業礼拝

3/16月 8:30～9:30



表紙写真
幼稚園クリスマスページェント

クリスマス メッセージ

羊飼いたちの詩

ルカによる福音書 2章 8～20節

大学宗教主任 左近 豊

抱えて生きている人々に対する攻撃的で剥き出しの暴言が正論となり、ガラスの天井は砕けずに、社会のタガがはずれたかのように、底が抜けるのを目の当たりにさせられる。この世界の影が暴走する昨今。

クリスマスはその世界にこそ訪れるのです。暗闇にたたずんでいる影たち。暴走する直前の、いや、もう暴走することさえあきらめきった者の所へと、誰にも委ねられない重荷を背負って、クリスマスなど自分とは関係がないと思っている一人ひとりのところへと、キリストが身を沈められたのがクリスマスなのですから。

ある意味で、「羊飼」いたちは「影」のような存在でした。高い壁の外の暗がり、何を語っても耳を傾けるものはおらず、通じぬ言葉を抱きしめて、交わりを絶たれて、通わぬ命を引きずっていました。

巷のきらめきが心に突き刺さるのを感じている現代の「羊飼」いたちがいます。寝静まった夜、一人起き出して徹夜の看病や介護をする方たちの、心がきしんで、やり場のない思いが叫び出しそうで、魂喰いしぼって涙が流れるほどの切なさ。親しい友にも、先生にも、時には肉親にも伝わらない悔しさを抱えて闇に閉ざされ沈黙に押しつぶされそうな影

たちの夜があります。

影なる羊飼いたちの深い闇夜の傍らに、ありあわせの布でくるまれて、寒く、暗い世界の片隅に、街の高い壁の外に、神の子キリストはお生まれになった。ほかでもない沈黙の内に魂が血を滲ませるようにして耐えている「あなたがたのために、救い主がお生まれになった」と告げられたのです。神の子らしくないけれども、羊飼いの闇を照らすのに相応しい救い主の誕生でした。

暗がり、で声を潜めていた羊飼いたちが話し始めたのを聖書は聞き取っています。影が言葉なき暴発にひた走るのではなく、失われていた言葉を新たに語り出すのを。「さあ、ベツレヘムへ行こう。主が知らせてくださったその出来事を見ようではないか」と話しあいがら出立するのを。

暗闇に光がともったとき、羊飼いたちの言葉が弾けました。それは憎しみを煽る言葉ではなかった。優しくも愛らしいキリストの誕生を告げる歌でした。影たちは暴走しないで、宿った光を証するものとなった、と。

ブルース・スプリングスティーン（米国のロック歌手）が語っていました。泥沼と化した戦場で人間の剥き出しのおぞましさを目の当たりにして帰還した兵士たちの姿や、貧しさ

に喘ぐ者たちを通して、人種や少数者を疎んじる社会に挑むロックを歌って人の心を揺さぶってきた彼は、その紡ぎだす言葉の背景に、幼いころからの聖書との出会いがあると。「6歳のとき、宗教の授業で聖書を読んだことで自分の言葉を身につけた。聖書は謎めいた詩で、深い悲しみと至福がある。歌詞を書くときに宗教的な言葉が霊的な力とともにたくさん入ってくる。救い、贖い、裁き…」と。

聖書を通して、出来事となった言葉を、現代の影たちの傍らで歌う詩人とされた一人のロック歌手へと連なるように、クリスマスを境にして羊飼いたちは詩人とされ、告げられた喜びを見ながら、歌うものとされたのです。神を崇め、賛美しながら帰っていった、とあります。帰って行く所はかつてと同じでも、一人ひとり心に消えることのない命の言葉を抱えて帰りました。相変わらず寒いままでも、そこからは暗闇にいて人々をほのかに照らす言葉がともっていたことでしょう。舞い戻った壁の外に光はあたらなくても、そこから聞こえる賛美の歌声が慰めの調べを奏でていたことでしょう。わたしたちはクリスマスに、それを聞くのです。世の影たちの傍らにあって歌い、共に賛美するものとされながら。

CHRISTIAN BOOKS & CDs

シリーズ・キリスト教関連メディア紹介

『WONDER ワンダー』

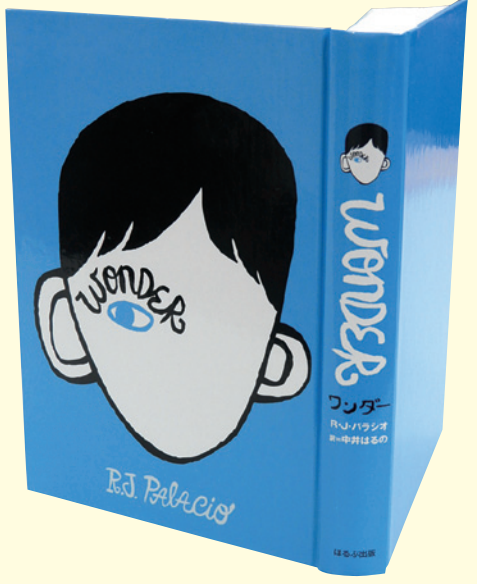
R.J.バラショ著、中村はるの訳、ホルプ社、2015年

学院宗教部長
大島 力

この『WONDERワンダー』という本を読んだのは、昨年、同名の映画[®]を見たのがきっかけでした。映画には「君は太陽」という副題がついていました。生まれつき顔に障がいを負って生まれてきたオギーという少年を主人公とした話です。それまで、自分の顔を周りの人に見せず家庭内で育ってきたオギーが、中学生になり通常の学校に行き始めます。

最初、オギーは、その顔のことでいじめにあいます。そして、自分を唯一助けてくれると思っていた友人にも裏切られたと感じ、もう学校なんか行かない、と家に閉じこもってしまいます。しかし、家族の支えや、徐々にオギーのことを理解し、支えてくれる友達も増えてきて、もう顔を隠さずに学校で過ごしていけるようになっていきます。周りの人々が変わり、またオギー自身も変わっていきます。とりわけ印象的な場面は、親しくなった友人に裏切られたとオギーが思い詰め、落ち込んでいた時、それは実は誤解であったことが分かることです。そのことを他のクラスメイトは知っていて、オギーに真実を伝え、友情が奇跡的に復活する場面には心を動かされます。オギーとその仲間たち、そしてそれを見守る家族にワンダー（奇跡）が起こったのです。私は、これは素晴らしいこと、ワンダフルなことであると思いました。

原作の本は映画と違い、オギー、その姉のヴィア、ランチと一緒に食べるサマー、オ



ギーのクラスメイトの親友ジャック、ヴィアの彼氏のジャスティン、ヴィアの親友であったミランダの視点から個別にオギーについて語られる構成になっています。しかし、圧巻なのは最後に中学校の修了式で、オギーが成績優秀者と並んで「勇気、親切、友情、人格」という人間を人間たらしめる資質に優れているとして「ヘンリー・フォード・ビーチャー賞」（奴隷制度廃止を主張し、人権について熱心に説いた人物を記念する中学校の賞）を受ける場面です。その時、オギーを心から愛していたママがそっと言います。「ありがとう、オギー」「オギーがママたちの人生にくれた、すべてのものに。うちの家族に生まれてきてくれて、ありがとう。そのままのあなたに、ありがとう」「オギーは本当に奇跡。すばらしい奇跡」。

映画では、最後に「You are a wonder」とママは静かに言う場面が映し出されます。

※ 映画「ワンダー 君は太陽」 2018年6月公開

WESLEY HALL NEWS

No.131 DECEMBER 2, 2019



「ユダヤ人の王としてお生まれになった方は、どこにおられますか。わたしたちは東方でその方の星を見たので、拝みに来たのです。」これを聞いて、ヘロデ王は不安を抱いた。エルサレムの人々も皆、同様であった。

マタイによる福音書 2章 2,3節

地の塩、世の光

The Salt of the Earth, The Light of the World

（聖書 マタイによる福音書 第5章 13～16節より）



祈りの声

アルブレヒト・ゲース

わたしたちはあなたを探しません
わたしたちにはあなたが見つかりません
あなたが探し わたしたちを見つけてくださるのです
永遠の光よ

わたしたちはあなたを愛すること少なく
あなたに仕えることがつたないのですが
あなたはわたしたちを愛し 仕えてくださる
永遠の僕よ

おのれにかまけて わたしたちは
身動きもせず
あなたが私たちを求めてくださるばかりです
永遠の言よ

幼子よ 飼ひ葉おけのあなたをしかと
抱きもかなわぬ わたしたちです
ただこのよい知らせは本当なのだと
いうだけで精いっぱいでございます

（小塩節・小塩トシ子編「クリスマスの祈りと歌」日本キリスト教出版局より）

アルブレヒト・ゲース（1908-2000）はドイツの牧師であり作家です。小説「焰のいけいえ」、「銀のスプーン」などを通して戦争の非人間性を訴えました。探しているようである探求求められ、仕えるべきなのに仕えられ、世界について学んでいるながら結局は自分のことしか考えていない。クリスマスはそのことに私たちに気づかせてくれます。私たちがもう一度人間らしさを取りもどすときです。飼ひ葉桶のなかの嬰兒がそれを可能にしてくれます。

（大学宗教主任 伊藤 悟）

編集後記

今年もクリスマスのシーズンが近づいてきました。でもクリスマスどころではないという人たちが全国に沢山います。だからこそ、本来のクリスマスを取り戻せるかもしれません。イエス様はわたしたちの苦しみをその身に背負うために生まれてこられたのですから。10月の台風や豪雨で被災された方々の上に神のご加護がありますように。

（大学経済学部教授 堀 真理子）

Wesley Hall News 第131号

2019年12月2日発行

発行 青山学院宗教センター 学院宗教部長 大島 力

東京都渋谷区渋谷4-4-25

TEL.03-3409-6537（ダイヤルイン）

（URL）http://www.aoyamagakuin.jp/center/index.html

（E-mail）agcac@aoyamagakuin.jp

編集 ユースルーホールニュース編集委員会

印刷 株式会社 萬全社



幼稚園
Kindergarten

幼稚園では年長児がクリスマス礼拝で役を担い、ページェントをお捧げします。アドヴェントに入る前、年長児を集めて3回に分けてクリスマス物語を話し、「どの役もとても大切」という事を伝えました。例えば、星はイエス様の誕生を知らせるために大きく光輝いた事で、博士や羊飼いがその星を頼りに馬小屋までやって来られた事、羊飼いは夜も寝ないで大切な羊の番をする当時とても大変な仕事だった事、羊飼いの棒は羊を守るための物だった事等を子どもたちと分かち合いました。するとA君が「僕、羊役をやりたい!」と言ったのです。例年、羊飼いの役はありますが羊役は近年ありませんでした。「羊飼いがいるのに羊がいらないなんておかしい!」と言うA君。この日はまだ役を最終的に決める日ではなかったので、A君の思いを受け止めつつ、遊びの中や集まりで様々な役を何度も演じながら最終的にA君に決めてもらおうと保育者間で話し合いました。しかし、A君の気持ちは揺るがず、一貫して気持ちは「羊役をやりたい!」でした。他にもA君と一緒に羊役をやりたい子どもたちが出てきました。

A君のお母様は「羊の役は台詞がないかもしれないわ?」と聞くと「あるよ。メーデーって鳴くんだ」とA君は言ったと言います。その話を聞き、なんとしても羊役を台本に入れようと思った担任保育者は教師会で相談をしました。「子どもたちから出た思いや意見、提案を保育者は受け止め、子どもたちと共に考え、また保育者間でも考え合い、進めていく、それが青山学院幼稚園の保育なのではないか」と話し合い、羊役を台本に取り入れることにしました。

当日、ページェントの中で4人の子どもの羊役の衣装を身にまとい、羊飼いに寄り添って共にベツレヘムへと向かう姿がありました。保育者が語ったクリスマス物語のメッセージ「どの役も大切」という言葉が、子どもたち一人ひとりの心に少しでも届いたのではないかとと思われた時でした。



初等部
Elementary School

サーバントリーダーを目指して 初等部教諭 戸井田 直人

そこで、王は答える。「はっきり言っておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。」マタイによる福音書 25章 40節

困っている隣人の中にイエス様を見出し、自分のできることをささげていく。これは、初等部の学校生活で子どもたちが目指していることの1つです。これまで、校内ではもちろん、学校外へも目を向け、子どもたちができる社会貢献を進めてきました。

ここでは4つの例を紹介します。まずは、バットボトルキャップの回収です。環境プロジェクトで活動をする高学年児童を中心に、全校規模で行われています。回収されたバットボトルキャップはお金に換えられ、ワクチンの購入に充てられます。これらのワクチンは、開発途上国の子どもたちの命を感染症から守るために使われます。

次に、国際NGO「チャイルド・フンド・ジャパン(CFJ)」を通した、フィリピンの里子たちの支援です。校内で集められ

た書き損じはがきや子どもたちによって教室でさげられる毎月の献金を、CFJに届けています。また、児童数名が、毎年CFJのフィリピン訪問プログラムに参加し、里子に会いに現地を訪れています。参加した子どもたちは、里子たちのことやフィリピンで体験したことを全校で紹介する取り組みを定期的に行っています。これは現地での体験を分かち合うことで、子どもたちみんなが具体的に祈りつつ、献金をさげられるようになるためです。

3つ目は、古切手を回収して「日本キリスト教海外医療協力会(JOCS)」に送る支援です。これは、宗教プロジェクトの児童が長らく続けてきました。集められた古切手を決められた方法で1枚1枚切り抜き、段ボール箱がいっぱいになったところで送ります。

最後に、今年から新たに、学習センタープロジェクトと宗教プロジェクトの児童による「charibon(チャリボン)」も始まりました。初等部で集めた古本などを業者に買い取ってもらい、その代金がCFJにさげられるという取り組みです。

ひと手間かけることで、世界の誰かの命を救う活動となります。子どもたちにとって身近で、尊い社会貢献と言えるでしょう。このような取り組みを通して、神と人につながる精神が子どもたちに自然に養われていくことを願っています。

中等部
Junior High School

中等部宗教主任 浅原 一泰

「やることはとても単純で小さなことだけれど、達成感はとても大きなものとなりました。そして念願だったクリスマス礼拝に関わることができてとても嬉しかったです。また来年度も、何らかの形でクリスマス礼拝に関われたらいいと思っています。」

これは中等部から青山学院に通うようになり、昨年のクリスマス礼拝でCF係というキャストの据直しや椅子の用意をする裏方の仕事を担当してくれた生徒が書いた感想です。クリスマスの本当の意味を知らなかった小さな命がクリスマス礼拝に関わることで喜びと感謝の思いを抱き、更に深く関わりたいと願う者へと変えられていく。ここに人知を遥かに超えた神の奇跡が起きていると思うのです。

中等部では毎年、クリスマス礼拝をキャスト、朗読、視聴覚(照明やスライドの調整役)、CF、聖歌隊、ハンドベルなど、100名近くの担当の生徒たちと思いと力を合わせて作り上げていきます。彼らの中に共通する思いは、本番を迎える前の不安との戦いや本番で足が震えるほどの緊張を味わうということ、一人が小さなミスでも全員でそれをカバーする本当の協力というものを経験すること、そして本番が終了した時に味わう達成感は格別なものであるということです。

冒頭に紹介した生徒は次のような感想も書いてくれ

高等部
Senior High School

高等部3年 谷 ひかり

今、日本では肌の色、国籍問わず様々な人種が混ざり合って共に生活をしています。しかし、日本は本場にグローバルな国だと思いますか? 障がい者にとって 住みやすい国でしょうか? 残念ながら私はそうとは思いません。

昨年私は、アメリカに留学し初めて障がい者の友達ができました。それまで日本で彼らと交流する機会がなく、上手く接することができませんでした。しかし、私は障がいがあるなし関わらず皆と一緒に楽しめるユニファイトスポーツに出会い、彼らは私たちよりできないのではなく、私たちより時間が必要だけで価値のある存在だということに気づかされました。

私は多くの生徒に障がい者を理解し彼らを受け入れて欲しいと思い、先日ユニファイトスポーツを高等部で行いました。友人、先生とスペシャルオリンピックス日本の協力があり、当日は多くの生徒、先生が来ました。初めの頃は生徒もアスリートさん(知的障がいのある選手)も緊張していましたが、混ざり合ってバレーを行なっているうちにみんな笑顔になりました。イベントが終わると多くの生徒が興奮しながら「先輩!アスリートさんすごいアタックしてました!」アスリートさん優しく話しかけてくれた」など感じたことを言って くれました。このように知らなかった障がい者の一面を多くの生徒が知って体験してくれたので、目的を達成することができました。



ました。「最後に私は、クリスマスについて思ったことがあります。それは、神と共にあり神を表す方としてこの世に来た光であるイエス様は、一人一人に栄光を照らしてくださるということ、そしてそのまことの光が、イエス様からの最高のクリスマスプレゼントであるということです」。神とイエスを受け入れない世界を「闇」とするならば、闇の中にいる多くの者たちの中から、まさにその闇の只中に降りて来てくれたイエスというまことの光に照らされる経験をする小さな命たちが産声を上げる。この生徒の言葉はまさにその神の業の証しに他ならないと思うのです。



高等部より

クリスマス礼拝

12/19 本 高等部PS講堂
説教 篠田 真紀子
(日本基督教団浅草教会牧師)

ホワイトキャンパス(伝道キャンパ)

2020年1/4土~6月

クリスマス礼拝

12/11 水 13:20~14:50
カウチャー記念礼拝堂
説教 関野 和寛
(日本福音ルーテル東京教会)
どなたでもご参加いただけます。

クリスマスチャリティー
チャペルコンサート

12/20 金 18:45~20:00
女子短期大学礼拝堂
クロリアス・クワイアによるハンドベル演奏



大学より

クリスマス礼拝

12/17 火 18:30~19:30
カウチャー記念礼拝堂
相模原キャンパス
相模原キャンパス
12/19 水 18:30~19:30
ウェスレー・チャペル
説教 加山 真路(六角橋教会牧師)
どなたでもご参加いただけます。

本部より

クリスマス・ツリー点火祭

～降誕を待ち望む礼拝～

11/29 相模原キャンパス
金 16:40~17:20
青山キャンパス
17:50~18:30

幼稚園から大学院までの全学院の礼拝として行います。
どなたでもご参加いただけます。

Art クリスマス Aoyama

12/3~11 水 短大ギャラリー他

クリスマステーマとした絵画展です。
どなたでもご自由においでください。

全学院教職員新年礼拝

2020年1/6 17:00~
月 カウチャー記念礼拝堂
説教 塩谷 直也(大学宗教部長)

クリスマス特集

闇の中に来てくれた光



女子短期大学
Women's
Junior College

ボランティアとは何か～BlueBirdの活動から～

女子短期大学子ども学科2年 松本 陽花

私は短大主催の東日本大震災復興支援団体「BlueBird」の活動に2年間参加してきました。BlueBirdは8年前の震災直後から岩手県宮古市で活動を続け、地域の祭りの手伝い、緑日やカレーパーティー、バザーなどのイベントの開催や、小学校の学童保育で子どもたちと遊んだり学習支援などをしてきました。

ボランティア＝肉体労働で瓦礫の撤去などのイメージが強かったのですが、活動の中で「ボランティアとは何か」を考え、人との繋がりから始まるのだと感じました。何か自分からアクションを起こし、誰かの心が明るくなり笑顔になる。その笑顔を見てアク

ションを起こした方の心も明るくなる。これが人々との繋がりで、生きていく上でも大切なことで、人とのコミュニケーションがどれほど大切で心温まるものであるかを、この活動から学びました。

その他、「共生社会実習A」では長野県の共働学舎で学び、山道を一時半登った所にある大自然の中で農業など共に働き暮らす自給自足の生活をしているなかに加わって、人々が協力し助け合いながら生きるといった素晴らしさを学びました。鶏の解体から命を頂くことの重み「食」の有難みを感じたり、便利なものが溢れる現代社会から離れて自給自足を体験して、人間が生きていくことの意味や大変さを

学び考えました。

2019年1月12日のシンポジウム「被災地に学ぶ」、3月16日の「被災地を覚えるコンサート」などにも参加して、短大生活の中でも被災地の問題は身近なところになりました。辛い経験を乗り越えようとする強さを持つ宮古の方々は、本当に優しく私たちを迎えてくれます。これからその心に寄り添いつつ、宮古に関わり続けたいと思います。

「ボランティアとは何か」の答えは1つではなく、正解もないと思います。これから様々な経験をしてボランティアのあり方を考え、人との繋がりを大切に生きていきたいと強く思います。

大学
University



ゴスペル・クワイア
The Power of Your Love

こんにちは! 青山学院大学ゴスペル・クワイアです。私達は週2回、学内の礼拝堂で先生方の指導を受けながら練習しています。ゴスペルは手拍子やコール&レスポンスなど、観客の皆様と一体となって歌い上げる音楽です。また、ゴスペルには福音という意味があります。今回のコンサートでは10数曲を演奏予定です。皆様にお会いできるのを楽しみにしております。

12月7日(土) 開場16:30 開演17:00
カウチャー記念礼拝堂



ハンドベルクワイア
第36回クリスマスチャペルコンサート

私たちは「天使の歌声」とも呼ばれる音色を持つハンドベルを用いて、大学礼拝や近隣の教会での奉賛を中心に活動しています。チャペルコンサートでは、クリスマスを祝う世界各国の賛美歌からミュージカルや映画音楽などのポップス曲まで幅広く演奏致します。1年間の集大成である大切なコンサートです。ぜひお越しください。

12月14日(土) 開場17:30 開演18:00
カウチャー記念礼拝堂



聖歌隊
クリスマス奉唱会のお知らせ

青山学院大学聖歌隊です。12月21日(土)にクリスマス奉唱会を開催いたします。英国発祥の伝統的なキャロル・サーヴィスに準じ、アダムとエバの樂園追放からキリストの降誕にいたる人類救済の歴史を9つの聖書朗読でたどりながら、あいだにキャロルや賛美歌を歌ってゆきます。お問い合わせの上、ぜひお越しください。

12月21日(土) 開場 14:30 開演 15:00
カウチャー記念礼拝堂